

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価 担当	局名	都市整備局
	政策	コンパクトで魅力ある都市空間の形成		課(室)名	都市計画課
	施策	多核連携型コンパクト・エコシティの推進		電話番号	087-839-2455
	基本事業	適正な土地利用の推進		事業実施主体	市
	事務事業	多核連携型コンパクト・エコシティ推進事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	平成30年4月に改定した多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画に基づき、集約拠点への都市機能の集積と市街地の拡大抑制による、コンパクトで持続可能な都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指す。				
	① 審議会・懇談会開催経費等 ② 立地適正化計画の見直し検討 ③ 都市計画マスタープラン改定（全体構想） ④ 上位計画の変更に伴う土地利用規制の見直し				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	5-⑦	事務事業の類型	⑤内部管理事務

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	人口減少・超高齢社会を見据え、30年、50年後においても、活力を失わず、市民がいいききと暮らせるよう、集約拠点への都市機能の集積と市街地拡大を抑制し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
① コンパクト・エコシティ推進計画に掲げる（実施済（継続分）	事業	56	59		62	62
②						

【事業の成果】

成果指標①

成果指標名（どのような成果が得られたか）

居住誘導区域内の人口密度

単位

種別

R 2

R 3

R 4

R 5

中期目標 R 5

46.4

46.4

46.4

46.4

46.4

46.4

45.3

45.1

44.9

46.4

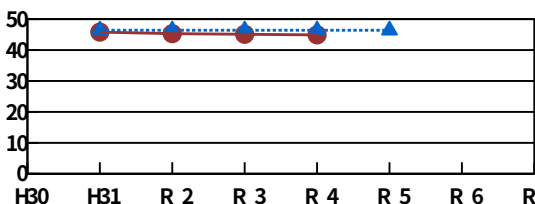
46.4

成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）

居住誘導区域において、生活サービスやコミュニティが継続的に確保できるよう、人口密度を維持することに努め、概ね目標を達成した。

（目標達成度）





（達成度）

96.8%

33点

成果指標②

成果指標名（どのような成果が得られたか）

中心市街地の居住人口の割合

単位

種別

R 2

R 3

R 4

R 5

中期目標 R 5

5.1

5.1

5.1

5.1

5.1

5.1

4.8

4.7

4.7

5.1

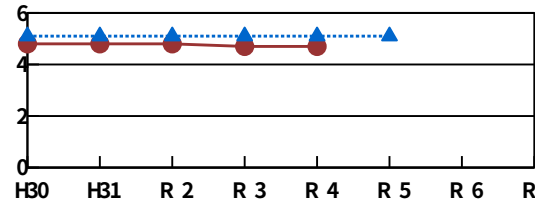
5.1

成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）

前年度から92人減の19,968人とほぼ横ばいで、居住人口の割合としても前年度と同値の4.7%となり、概ね目標を達成した。

（目標達成度）





（達成度）

92.2%

32点

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔千円〕	14,643	13,034	20,936	26,707
（事業費）	〔千円〕	3,270	1,558	9,485	13,685
（職員人件費）	〔千円〕	11,373	11,476	11,451	13,022

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
人口減少・超高齢社会を見据え、30年、50年後においても、活力を失わず、市民がいいききと暮らせるよう、集約拠点への都市機能の集積と市街地拡大を抑制し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めるため、都市計画マスタープラン及び関連計画の見直しに向けた調査・検討を行った。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
今後とも、立地適正化計画やコンパクト・エコシティ推進計画に基づき、人口減少・超高齢社会を見据え、30年後、50年後においても活力を失わず市民がいいききと暮らせるコンパクトで持続可能なまちづくりを実現するために継続して事業を推進していく。 5年度は、シーフロントゾーンを始めとする、用途地域の見直しについて検討を進め、次期総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画に、将来のまちづくりの方向性を見据えた土地利用の考え方を反映していく。			

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	コンパクトで魅力ある都市空間の形成		課(室)名	住宅・まちづくり推進室
	施策	多核連携型コンパクト・エコシティの推進		電話番号	087-839-2136
	基本事業	適正な土地利用の推進		事業実施主体	市
	事務事業	豊かな住まいづくり事業		事業期間	平成 30年度～令和 5年度

【事業全体概要】					
事業の概要	今後、少子高齢化や世帯数の減少により、空き家はさらに増加する見込みであり、これまでの住宅の「量の確保」から「質の向上」を図るとともに、子育て支援や高齢者への生活支援など、多様なニーズに対応した住環境の整備を図る。このため、本市の地域特性に合わせた施策・事業を展開するため、「豊かな住まいづくり条例」を制定し、空き家の発生抑制や流通促進に資する支援施策を講じる。その際、高松市コンパクト・エコシティ推進懇談会において幅広い意見を聴取した上で、きめ細かな住宅政策に取り組む。				
年度概要	①高松市住宅取得支援事業 ②高松市安心あんぜん住宅事業 ③既存住宅流通促進事業 ④マンション管理適正化推進事業 ⑤政策研究大学院大学短期研修旅費				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	事務事業の類型	②ソフト事業（法律による実施義務無）	

【事業の目的】	
対象（何を）	市民及び住宅
意図（どのような状態にしたいか）	・良質な住宅ストックの形成と将来世代への承継 ・良好な住宅環境の形成 ・多様な居住ニーズが適切に実現される住宅市場の環境整備

【事業の活動】						
活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 2	R 3	R 4	中期目標 R 5
①	コンパクト・エコシティ推進懇談会開催回数	回	3	4	4	3
②						

【事業の成果】								
成果指標①	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	市民満足度調査（居住年数１０年未満の対象者における、住みよい・まあまあ住みよいの割合）	％	目標値	86.4	86.4	86.4	86.4	86.4
			実績値	81.1	86.4	72.3		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							(達成度) 83.7%
	前年度より１４％数値が下がり、目標未達となった。この下降要因を分析した上で、引き続き目標達成に向け、高松市住生活基本計画に基づき、具体的な施策展開を進めていく。							29点
成果指標②	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	居住誘導区域内の人口密度	人／h	目標値	46.4	46.4	46.4	46.4	46.4
			実績値	45.3	45.1	44.9		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							(達成度) 96.8%
	居住誘導区域において、生活サービスやコミュニティが継続的に確保できるよう、人口密度を維持することに努めた結果、昨年度より数値は微減となったものの、おおむね目標を達成した。							33点

【コストの推移】					
指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔千円〕	13,306	19,576	19,964	21,508
（事業費）	〔千円〕	1,185	7,345	1,254	2,798
（職員人件費）	〔千円〕	12,121	12,231	18,710	18,710

【評価】			
評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	拡充
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
本市の住宅関係施策の統一した指針となる「高松市住生活基本計画」に基づき、既存マンションの適正な管理や流通促進、管理の適正化意識の醸成を促すため、「高松市マンション管理適正化推進計画」を策定した。 令和５年度以降は、本計画に基づいた施策を進めるとともに、空き家対策となる中古住宅施策の検討を進める必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
本市の地域特性に対応した施策・事業の展開を後押しするため制定した「高松市豊かな住まいづくり条例」や、「高松市住生活基本計画」に基づき、空き家の発生抑制や流通促進に資する支援施策を講じる。その際、高松市コンパクト・エコシティ推進懇談会において幅広い意見を聴取した上で、きめ細かな住宅政策に取り組む。			